

月報 NO74

神戸山岳会

発行日 49. 3. 29

発行所

神戸市生田区中山手通一丁目

105の9 前田方

発行者 神戸山岳会

例・集会スケジュール，3月，4月

3/ 3	妙見-蘇武スキーツアー	前夜宝塚 21:30	釜本
3/10	不動岩R.C.T	前夜宝塚 20:00	植原
3/17	氷ノ山スキーツアー 西尾根-長砂スキー場 大段平-安井	前夜宝塚 21:30	立岡
3/24	壱壘岩R.C.T	前夜阪急六甲 20:00 当日現地集合	内藤②
3/31	雪彦山R.C.T	前夜現地集合	植原
4/ 7	強歩、八幡谷-横池 一軒茶屋-宝塚	阪急岡本駅 8:30	内藤②
4/14	不動岩R.C.T	前夜宝塚 20:00	古賀
4/21	ポッカ、菊水-摩耶山	平野 8:30	三浦

委員会 3/ 6 4/3

集会 3/13 4/3 於 研修所(18:03)

注・尚、4月の委員会・集会は4月3日(水)に研修会にて重ねて行なわれます。

総会の日時が下記の通り決まりました。

5月12日(日) P.M 1:00より 於・登山研修所

74 . 春山合宿計画概要

- 登山地 槍・穂高
- 目的
- 期間 昭和49年4月28日～同年5月6日
- 参加者 釜本、内藤②・立岡・植原・古賀・三浦 他 未定

冬山合宿・気象

気象担当 植原 清明

12月30日 終日小雪。沢渡～徳沢間は梓川ぞいの道路のため風はあまりなかったが、穂高等ではかなり荒れているもよう。視界は1km程度である。22時過ぎ星空になった。徳沢では、谷間のためラジオが入りにくかった。気温 9時：0℃（沢渡） 12時：0℃（釜トン出口）
15時：-1℃（上高地）

12月31日 午前中快晴、午後より曇り後吹雪。31日18時の天気図によると、東経139度、北緯43度、つまり北海道の日本海側に1004mbの低気圧があり、それより寒冷前線が中部山岳地方に延びている。その前線の影響のためか長嶺山頂下あたり、時間的には15時頃から空一面、雲に被われ幕営地についた17時には西風によって吹雪き始めた。この吹雪は一晚中続いた。気温 9時：-8℃（長嶺尾根下部） 12時：0℃（長嶺尾根上部）15時：-9℃（長嶺-蝶稜線）

1月1日 1日6時の天気図によると、昨晚、悪天をもたらした1004mbの低気圧は1002mbに発達して三陸沖に去ったが、その影響がまだ残っており、8時頃まではまだガスっていた。しかし、次第に雲が切れはじめ、9時頃には快晴となった。ただ穂高、槍の頂上付近には雲がまつわりついていた。1日12時の天気図によると、1002mbの低気圧は、本州東方海上に去り、華南にある1025mbの高気圧に西日本は覆われた。この頃、槍、穂高の山頂部の雲が切れ、蝶ヶ岳からは360°の展望が開けた。東の空は雲海状になっており、その切れ間から安曇野の平野が眺められた。気温、12時：-7℃（蝶ヶ岳） 15時：-2℃（蝶ヶ岳小屋付近）

1月2日 昨日12時の天気図によると、アムール河流域に996mbの低気圧から延びた気圧の

谷が日本に近づいて来ていた。また、早朝、焼岳などには笠雲がかかっており午後より悪天が予想されたが、意に反して終日快晴、上高地では樹氷がすっかり溶け春のような陽気であった。下山してから調べてみると、モンゴル付近に1028mの高気圧があり、これが西日本を覆っていた。16時頃、大正池畔から穂高を眺めると中腹に一条の雲があり、それが次第に山頂部に広がっていった。しかし、空には無数の星が輝き、月明りで沢渡まで歩いた。気温 9時：-8℃（長埴屋根） 15時：3℃（大正池畔）

冬山合宿・食糧

今回の合宿は、当初長埴山-蝶ヶ岳-常念岳-横通岳-東天井岳-大天井岳という縦走形態のため、食糧係としては軽量化に主眼をおいて計画した。玉ネギ、ジャガイモ、人参、肉類など重量のあるのをできる限りひかえ、その補足的なものは特に考えなかったが、強いてあげれば、ホウレン草、ネギなどの乾燥野菜であったろう。山行前、そのためかなり貧しい食事になるだろうと観念していた。しかし、実際山行中朝、夕食に関してはこれといって不満な点はなかったようにおもい。夕食後計画通り行なったのであるが、それによると、ブタ汁、カス汁、シチューは10人分につき玉ネギ、ジャガイモ各々1個、乾燥野菜若干それにベーコンという具の少なざだった。しかし、水で量を多くし、塩、砂糖、コショウ、コンソメで適当に味付けすれば、栄養面では劣っていたかもしれないが、結構おいしく食べられた。特に夕食で人気があったのはビーフシチューだろう。これは、前記の材料で行なったのであるが、水が多すぎ、粘りがなかった。そのため片栗粉を適量加え、塩、砂糖、コンソメで味付けし、具がとけてしまいうまで長時間煮たものである。

最も問題になったのが行動食である。これは食糧係の不手際により主食のカステラの量が少なく、スライスチーズ1人5パックが全ての者に配分されておらず、人によってチーズを行動食として、口に入れることができた者とできなかった者がた。また、ビスケットの保護を怠ったため、粉々にこわれていた。食糧係としては大いに反省すべきことである。

体の朝子が悪く、食欲のない時は、湯に甘納豆を入れたぜんざいのようなものは、吐き気をもよおしていても食べやすいということである。加藤文太郎もこれをよく使用していたようであるが、これから当初の計画にこれを加えて大いに使用してもよいのではないだろう。

反省会の時の要望であるが、ベーコンより生肉を使用してほしいということである。冬山だと生肉でも保存がきくので、これからの冬山山行には使用してもよいかもしれない。しかし、夏山とな

ると保存がきかないので考慮すべき点があるだろう。またブタ肉の塊のくん製が発売されているということである。これなどは、そのまま食べることができるため利用範囲が広く、保存も幾分分きくので一度使用してみてもおもしろい。今回も含めてこれまでのほとんどの山行ではアルコール類は差入で賄っていた。しかし今回の山行ではウイスキー2本がすぐ空になってしまい、もっとそれがほしかったという意見がでた。これからはアルコール類も主要な食糧と考え、計画すべきかもしれない。それから装備の部類に属するかもしれないが、さいばしがあれば調理の時便利だということである。

最後に、今回の合宿は、予定より早く下山したためそれほど食物に関する飢餓感はなかったかもしれない。しかし、天气が荒れ、停滞日数が増せば、最小限の食糧だったため、飢餓感におそわれていたのではないかとおもしろい。

(記・植原)

氷ノ山八木川源流左俣遡行

1974年1月1日～2日

パーティ L 内藤保一・宮本朋之

1日 晴時々曇

丹戸13:50分着 バスはスキーヤーばかり、僕のスキーはウイスキーと言いつ飲んだ列車でのアルコールがまだ残って居て、少しふわふわした気持だが、すぐ取付きに向け出発する。途中腹ごしらえをし、スパッツを付け、取付 15:10分、ここから早やラッセルだ。左岸の鉄梯子を登り堰堤を越える、すぐ右岸、ヘトラバース 又左岸とルートを求めて前進F1は雪に埋って居て気が付かなかったが、なんなく越え、右岸左岸のくりかえして 30m程の廊下に出る。ヘツリヤスノーブリッジを越える時、もし流れや淵に落ちる様な事があればすぐ下山と決める。廊下からF2下部まで雪とブロックで埋まり流れは見えない。F2は全体が雪壁と成っ居て大きい。50m位の落差はあろう。アンザイレンをし乍ら、この雪壁を登るだけの力があるのだろうか、リーダーの足を引っぱる様な事になっては・・・と、ここへ来るまでの僕にとって初めて三日間も休める事の夢の様な気はふっ飛び 厳冬の沢と言ひ不安と燃える意欲とが交錯して心ひきしめる。一腹立てて左岸を登る事にす 壁にそって少し高度を上げると残置ハーケンが一見える、ピレーを取りNがトップで雪壁を削り草付きをだまし乍らつるつるの岩膚を20m程右へ直上し左へ雪壁を20m程トラバース、やっと落口右下の雪のテラスに出る。ピレー中

登攀中頭から雪をかぶり、手が冷めたさを通り越して痛さだけを感じる。でも身も心も白き雪と氷に洗い流されていく様だ。

テラスより上部落口までの雪壁は何回もずると滑り落ちそうになるがまばらに生えて居る灌木をたよりにやっとの擧で攀登り、夏では、とても考えられない様な場所の1m四方強の雪のテラスでピバークと決める。17:00

2日 曇

8:00 冷えこみが少なく、冬としてはおだやかな天気だったので朝から強度のラッセルだ。F2上部10m程で、直角に左に曲ったF3は雪に埋まりほとんど流れは見えないが40m以上はあろう滑滝だ。雪の左岸を上部に出、右岸へ、F3上部で大きく右に曲り、正面がF4だ、F4下部で左岸へトラバネス、そして直登。積雪多くことも又悪戦苦闘の末上部へ、増々積雪多くなり、F4、F5中間部にて、ワカンを付け右岸へ、F5はほとんど垂直に落ちる30m程の滝で水量もあり、左岸15m下流に下部より上部まで通った。チムニーを持つ。左俣最後の滝にふさわしい。右岸を下部少し手前で左へ10m程高度を上げ、落口左下5mの所まで直登、あと落口へ斜上する。9:15

F5落口より沢は2つは分かれる。ここから左俣にコースを取り、左前方頂上へ突き上げて居る(仮称)ダイレクト尾根へ向け出発。

(仮称)ダイレクト尾根取付き9:30分 取付きからはラッセルの連続で、頭まで雪まみれ、交代で頂上へ、馬の背あり 岩峰ありいっとうに頂上は見えない 最初のベースでは屋にはと思ったが 雪とピークにしごかれて、しごかれて、14:00分やっと頂上真北200mなだらかな台地の切れた所に着く。この尾根は、次から次とピークが現われて、げっそりしたが、誰れも入ってない所、下る所がないので良い尾根だ、小休止、写真をとり後はある程度クラストした雪面を足早に頂上へ14:15分、我々のスキーを飲み思わず手を握りあり。14:35分早々と頂上を後にし、良く踏まれた東尾根へ、東尾根避難小屋15:30分、大休止の後丹戸へ、スキー客で満員の民宿の空部屋を求めて 17:30分宿の人となる。

記・宮本

コースタイム

1日目

丹戸 13:50—取付き、15:10— F2下部

16:00—ピバーク地17:00

2日目

ビバーク地 8:00—F3 上部 8:15—F5 F部 8:55—F5 上部 9:15—ダイレクト尾根取付き 9:30—頂上 14:15—発 14:35—東尾根避難小屋 15:30—発 15:55
丹戸 14:40。

水ノ山スキーツアー

1月26日～27日

参加者 釜本、梅原、内藤①、立岡、野上③、宮本、野上の友人

例年のとおり、宝塚に集合して10時すぎの列車にのりこみ、2時頃、八鹿に着いたが、いつも出ていたバスが今年からなくなっており、ウロウロしている内にタクシーもなくなってしまい、全但バスの待合所でビバークということになってしまった。

6時まで仮眠してタクシーで草出まで、ここから向山スキー場を通って東尾根に取付いたが今年はずすかに雪が多く、スキーを着けていてもラッセルに苦勞させられたが、それでも快晴の中を今シーズンはじめてのツアーを大いに楽しんでしたが、東尾根のヒナン小屋について時計を見るとすでに11時になっており意外に手間取っている。

小屋から上のいつも階段登高する所は新雪のため最悪の状態、全員登りきるのに1時間かかってしまった。このころから天候が悪くなってきて、千本杉のあたりでは視界20mぐらいになり本格的な吹雪になってきた。

頂上には2時20分頃、到着したが、いつもとくらべたら2時間以上おくらせている。早々にシーヤルをはずし、ヤッケ、オーバースボンを着けて3時、二の丸へ出発したが、すこし下ってみたものの、視界がほとんど0mで到底無理な状態であるので頂上まで引き返して東尾根を下ることにして、登りのトレースを忠実にたどりつつ千本杉まで下っていった。千本杉までくるときさすがにアルプスなみの吹雪もやわらいできたが、快適にすべれる所がすくないため四苦八苦しながら、4時すぎにヒナン小屋に着いた。

ヒナン小屋からは奈良屋のコースに入り、急斜面の斜滑降、キック・ターンのくりかえしてようやく段々畑まで降り、うすぐらくなりかけた中をいそいで、6時頃、奈良屋についてスキーをはずした。

帰路は最終バスにおくれたためタクシーで八鹿まで、2名のみ 姫路まわりで帰ったが、あと1月曜日の朝帰りになってしまった。

会 員 動 静

大 塚 正 之 君 (転 勤)

久し振りに神戸に帰ってこられました。

住所は 元どおり

神戸市北区鈴蘭台南町7丁目8-1

電話 591-1442

小 島 勝 俊 君 (転 勤)

大塚さんとは逆に乾君と共に東京勤務になられました。

住所は 埼玉県春日部市粕壁字草刈場2097-4

電話0487-36-5690

勤務先 (株)大 隆

電話03-403-0301

乾 昌 弘 君 (転 勤)

住所 東京都世田谷区玉川台2-12-11

大阪建物 玉川荘

電話 03-700-1649

勤務先 大阪建物東京支店営業課

電話 03-591-8331

数 野 満 義 君 (移 転)

新住所 東京都品川区西五反田2-31-3

石原薬品KK 五反田寮

星 加 弘 之 君 (営 業 所 移 転)

新営業所 長田区真野町2番22号

電話 671-2839

金田 晏君 (長男誕生)

12月末に長男が誕生せられました。おめでと。

退 会

西原 一誠君

山口県へ転勤のため一応退会し会友となりたい旨、申出があった。

西原 一誠君 よりの便り

拜啓 日増して暖かくなってきましたが、皆様春山も近づきトレーニングに励んでおられる事と思います。

今度は急な転勤となり、挨拶もせず失礼致しました。神戸・堺滞在中は有意義な山行ができましたのも皆様の指導と援助があればこそ、と感謝致します。こちらは九州の山も近く、これからも山登りは続けていくつもりですので相変らないご指導をお願いすると共に、こちらへおいでの節はどうぞ一報下さるようお願い致します。

最後に皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

敬 具

住所 〒755

山工県宇部市神原町1丁目

宇部興産(株) 梶返寮

西原 一誠